

所 報

くしる

No.291

釧路教育研究所

平成31年 3月



経験は意図的に積み、それに整理を加えなければ実力にはならない

釧路教育研究所長 湊谷 美樹治

仕事に行き詰まったり、予定が立て込んだりして心に余裕がなくなってくると、（なぜだか）本を読みたくなります。そんな時には新しく購入した本ではなく、これまでに読んできた本を再読することの方が多いのですが、以前はそれほど響かなかった言葉が心に届いたり、何となく引っかかっていた言葉の意味がより明確になったり等、新たな発見をすることが多い気がします。

先日読んだのは、『授業で鍛える』（野口芳宏 明治図書）でした。野口先生は、国語科授業の名人として有名です（「うとてとこ」や「大造じいさんとがん」の授業をご存知の方も多いことでしょう）。野口先生がある講演会で語られていたのが、「経験は意図的に積み、それに整理を加えなければ実力にはならない」という言葉です。

小学校の教員は通常、年間に千時間ほどの授業をします。もしも、経験がそのまま実力に結びつくとしたら、私たちは授業の経験を重ねる度に、教師としての力量が向上するはずですが、しかし、残念ながら現実には必ずしもそうではありません。だからこそ、野口先生は「意図的」と「整理」というキーワードを取り上げているのだと思います。

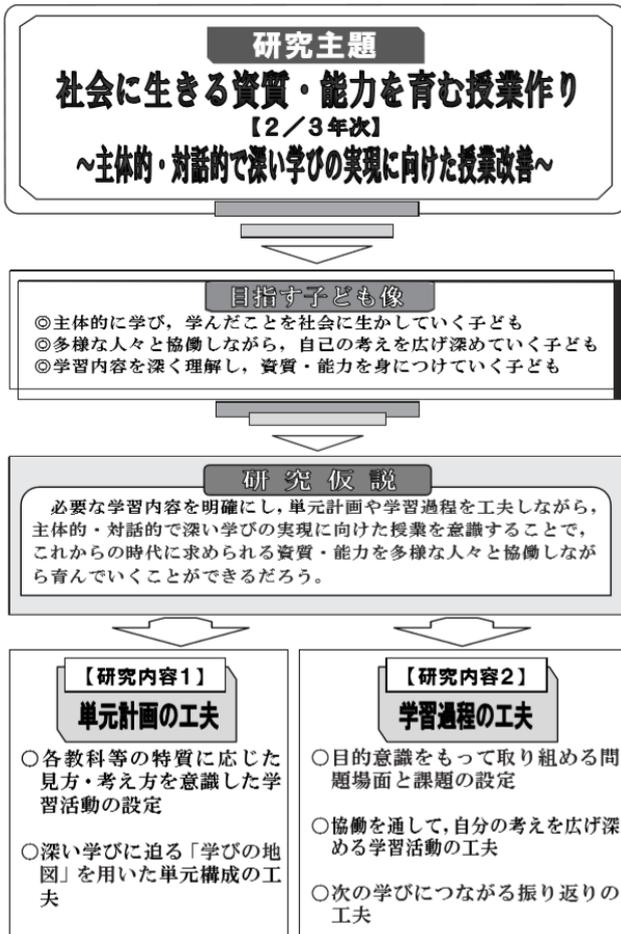
授業の経験を重ねるだけでは、授業力の向上に結びつきません。なぜその発問・指示をするのか、子供の反応がAだったらどう対応するのか、Bだったらどうするのか……、授業者としての「意図」が必要です。その上で、結果を分析し、うまくいったこととそうでないこととを峻別し、その要因を探る過程が重要になります。それらが「整理」に当たります。

そして、「整理」したことを元に、再度「経験」を「意図的」に重ね、その往復を続けることで、教師としての「実力」がついていくのだと思います。

このことは授業だけではなく、一般的な業務等でも同様である気がします。ただ単に仕事に取り組むのではなく、意図的に経験し、それに整理を加えて力量を高めていく。同じ仕事に臨むとしても、そこに「意図的」「整理」というキーワードが加わると、結果は随分違ってくると思うのです。

さて、今年度も皆様のご協力のおかげで、釧研の事業を計画通り推進することができました。心より感謝申し上げます。今年度の取り組みをしっかりと「整理」し、次年度も「意図的」に釧研の事業を進めてまいります。管内各校や関係機関とのつながりを大切にしつつ、教職員一人一人の期待に応える研究・事業推進を目指してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

H30年度 釧路教育研究所研究報告



今年度は、昨年度スタートさせた「社会に生きる資質・能力を育む授業作り」の2年次目を行い、所員一同で構築してきた研究理論をさらに深めた1年となりました。この1年間の取組の軌跡をご報告させていただきます。

本研究は、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行い、子どもたちに社会に生きる資質・能力を育てていけるよう研究を進めてきました具体的な研究内容として、

【単元計画の工夫】

- ・各教科等の特質に応じた見方・考え方を意識した学習活動の設定
- ・深い学びに迫る「学びの地図」を用いた単元構成の工夫

【学習過程の工夫】

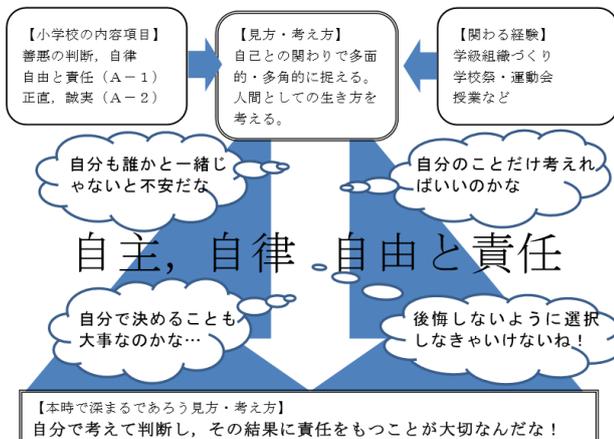
- ・目的意識をもって取り組める問題場面と課題の設定
- ・協働を通して、自分の考えを広げ深める学習活動の工夫
- ・次の学びにつながる振り返りの工夫

上記のように単元計画、学習過程の二方向から授業改善を図ってきました。今年度所員が行った授業研、中学校1学年道徳「自主的な判断」、小学校6学年算数科「速さ」をもとに研究の一部を紹介させていただきます。

(紙面の都合上、単元計画、学習過程から1つずつとなります)

① 【単元計画の工夫】【深い学びに迫る「学びの地図」を用いた単元構成の工夫】の成果

研究内容1-(2) 深い学びに迫る「学びの地図」を用いた授業展開の工夫

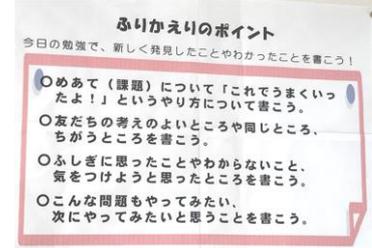
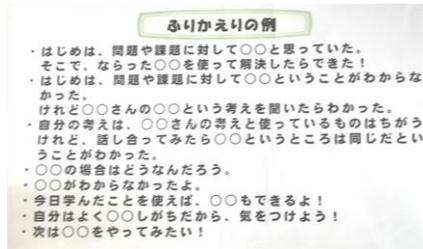
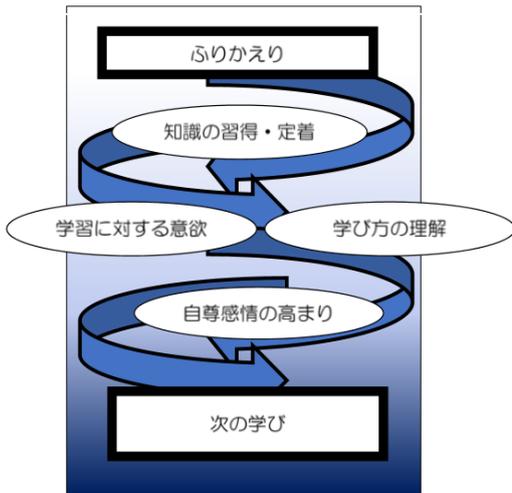


子どもたちが今までに身に付けた知識・技能、見方や考え方を基にスタートし、単元における深い学びへとどうつなげていくか左のような学びの地図(構成図)を作成しました。その際には「本時で深まるであろう見方・考え方」を明確にし、どのように子どもたちに身に付けていくのか子どもの思考の流れを考え、作成していきました。今年度は、国語・算数以外の教科、短い単元においても「学びの地図」を生かせるのかを検討し、道徳の学習にて研究実践を行いました。

「学びの地図」の作成によって、子どもたちがどのような体験、知識・技能を手がかりとするのか、どのように見方・考え方を深めていくのか要点をつかむことができるとともに、「学びの地図」の作成により子どもの姿を具体的にイメージすることができ、ゴールにたどりつくためのツールとして役立ちました。このゴールに到達した時にこそ「深い学びとなった」と捉えられることを改めて研究所員一同、実感することができました。

① 【学習過程の工夫】【次の学びにつながる振り返りの工夫】の成果

学びの深まりのイメージ



振り返りを習慣化することによって、子どもは、学習で学んだことをもう一度振り返り、学習内容の定着を図ったり、次の学びにつなげたりすることができるようになります。左の学びの深まりのイメージにあるように、振り返りは、「知識の習得・定着」「学習に対する意欲」「学び方の理解」「自尊感情の高まり」につながっていくと考えられます。そこで、

本実践では、上にある例を提示することで、子どもたちは、例を参考にしながら毎時間多様な視点をもちながら振り返りを行い、次の学びへとつながっていき、高まっていく姿を見取ることができました。

これまでの実践から考えられる子どもにとってのメリットを以下のようにまとめました。

- | | |
|-------------------|---------------------------|
| ○自分が何を学習したかがわかる。 | ○どうして間違ったのかを振り返ることができる。 |
| ○自分が何を身に付けたかがわかる。 | ○どうしてうまくいったのかを振り返ることができる。 |
| ○次の学習に生かすことがわかる。 | ○次に学習したいことを考えるようになる。 |
| ○自分の成長がわかるようになる。 | |

② 本研究を振り返って（本年度の課題と3年次に向けての改善策）

- 「見方・考え方」の解釈の仕方について不明瞭な部分がある。
→「各教科の特質」を鈷研としてどのように押さえているのかを検証していく必要がある。さらに、各教科における「見方・考え方」の違い、共通点、ねらいとしているところなどを明確にしていけるとよい。
- 学びの地図のスタイルをどうしていくのか、学びの地図のゴールに位置するものが何なのかをはっきりさせる必要がある。
- 「目的意識のもたせ方」の例示があるとわかりやすい。また、各学習や各単元、子どもたちの実態により手立てが大きく異なってくるので、「これが正しい」という明確な提案には、なりにくい。
- 協働を行うためには、教師の用意周到な場の設定や子ども同士の主体性や他者の考えを受け入れる雰囲気など土台が必要であることを感じた。
→「協働をするにあたっての素地」がどの程度できていて、何ができていないのかを踏まえて協働の方法を選択していく必要がある。
- 「振り返りをしたその後」が研究結果として出されると、実践する意味がより伝わる。
→振り返りの重要性は明確になったが、振り返りをしたあとにどのように次につなげていくか、また、つなげることでどのような効果があるのかについては検証できなかった。事前研や事後研でも振り返った後の取り組みについて話題に上がったこともあったので、来年度はそこについても検証していきたい。

※平成30年度 鈷研紀要第72集にまとめられていますので、ぜひご参照ください。

釧路教育研究所 研修講座案内

講座名	時期	場所	内容・講師等
講座1 (出前講座) 学校全体で支える特別支援教育	7/30	白糠町立 茶路小中学校	道教大釧路校二宮教授による講演会。さまざまな子どもの困り感や支援ニーズに、特別支援担当教諭だけでなく、学校全体で応えていくために必要な考え方や方策等について深めていきます。
講座2 (出前講座) 学校全体で支える特別支援教育	5/22	弟子屈町立 川湯中学校	
講座3 (出前講座) 学校全体で支える特別支援教育	長期 休業中	鶴居村	
講座4 【実技教科】 できる！体育基礎講座	7月 中旬	釧路町立 昆布森小学校	授業参観および実技講習を行います。自校での授業に生かせる実技指導のコツを学びます。
講座5 【実技教科】 できる！技術基礎講座	未定	釧路町立 富原中学校	免外指導している技術科の先生を対象に、技術科の指導と評価についておよび、指導計画の作成等について学びます。
講座6 釧路教育研究所 研究部による授業	未定	未定	釧路教育研究所の研究理論に基づく授業を公開します。事後研を通じ、指導法の改善・充実について協議します。
講座7 複式教育	5/21	鶴居村立 下幌呂小学校	複式で行われる授業の実例を通して、複式学級における学習指導の基本や、指導案の作り方などについて学びます。
講座8 学校防災マニュアル	6月 中旬	釧路工業 高等専門学校	学校における災害発対応等について、教職員の役割等を明確にし、学校防災体制について考えていきます。
講座9 (ミニ道研) ①ICTを活用した授業づくり ②小学校におけるプログラミング教育	6/21	釧路教育局	プログラミング教育を進めるにもICTの活用は必須となります。ICT機器の基礎的活用や小学校の先生方を対象としたプログラミング教育の力量の向上を図ります。
講座10 (ミニ道研) ③実践から学ぼう！「授業づくり・学級経営」 ④道徳教育	8/2	釧路教育局	授業づくりや学級経営のポイントについて学びます。教育活動全体で行う道徳教育の在り方について理解し道徳の授業づくりの力量の向上を図ります。
講座11 要点はこれだけ！～移行措置の外国語の授業～	年度 初頭	未定	小学校の外国語について、中学校への接続を加味しながら、要点を学んでいきます。
講座12 プログラミング教育講座	2学期	白糠町立 白糠小学校	Scratch を用いたプログラミング教育の指導の実際について学びます。釧路高専とのタイアップ事業です。
講座13 誰でもできる！書写指導	未定	厚岸町立 厚岸中学校	中学校の授業を切り口に、書写の授業の作り方や進め方について学びます。

事務局通信

- 久しぶりに5年生や6年生と一緒に授業をしました。教材の準備や授業構想の時間、授業中の子どもとのやりとり…。充実して楽しかったです。授業をしていなくても教師であることには変わりはないのですが、子どもと直接関わることで、自分は教師なんだなと実感できた嬉しい時間でした。
- 年間9回発行しております、釧研所報も今年度の最終号となりました。学校は、年度末・年度始業務で最も忙しく、皆様慌ただしく毎日をお過ごしのことと思います。新年度に向けて新たな希望が生まれるのは、子どもだけではなく私たちも同じではないでしょうか。新たな1年に向けて充実した日々をお過ごしください。どうか次年度も釧路教育研究所をよろしく願いいたします。(事務局)

★釧路教育研究所★ 所報291号

発行日：平成31年3月

発行所：釧路教育研究所

発行者：湊 谷 美樹治

URL

<http://senken.net/>

E-mail

info@senken.net



アクセス用QRコード